

## 議決権行使レポート

証券コード 6503  
 会社名 三菱電機

	賛成	反対	棄権
議案 取締役12名選任			
藪中 三十二 氏		○	
渡邊 和紀 氏		○	
小出 寛子 氏		○	
小坂 達朗 氏	○		
柳 弘之 氏	○		
江川 雅子 氏	○		
松山 遙 氏	○		
漆間 啓 氏		○	
皮籠石 斉 氏	○		
増田 邦昭 氏	○		
永澤 淳 氏	○		
武田 聡 氏	○		

### 取締役12名選任の件

選任候補に挙げられた12名の賛成・反対の理由について述べていく。各人のスキルが簡単に確認できる表として、2023年度三菱電機招集通知の9、10ページを掲示しておく。

#### 株主総会参考書類

議案及び参考事項

##### 議案 取締役12名選任の件

取締役全員(12名)は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、指名委員会の決定に基づき、社外取締役7名を含む取締役12名の選任をお願いいたしますと存じます。  
 なお、取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名	職員の地位に就ける職位及び理由	取締役会出席状況
1	藪中 三十二	取締役会議長、指名委員長、監査委員	100% (13回中13回)
2	渡邊 和紀	取締役、報酬委員長、監査委員	100% (13回中13回)
3	小出 寛子	取締役、指名委員、報酬委員	100% (13回中13回)
4	小坂 達朗	取締役、指名委員、報酬委員	100% (10回中10回)
5	柳 弘之	取締役、指名委員、報酬委員	90% (10回中9回)
6	江川 雅子	—	—
7	松山 遙	—	—
8	漆間 啓	取締役、代表執行役、執行役社長、CEO	100% (13回中13回)
9	皮籠石 斉	取締役、監査委員	100% (13回中13回)
10	増田 邦昭	取締役、指名委員、報酬委員、常務執行役、CFO(経理、財務担当)	100% (13回中13回)
11	永澤 淳	取締役、監査委員	100% (10回中10回)
12	武田 聡	常務執行役、監査部長、CIO(経営企画、IR・CSR、取締役会、IR・CSR推進部、IR・CSR推進室、IR・CSR推進課)	—

(注) 当社は、当事業年度において、取締役会を13回開催しております。  
 なお、小坂達朗、柳弘之、永澤淳の3氏の出席状況につきましては、2022年6月29日の選任以降に開催された取締役会を対象としております。

##### 取締役候補者のスキルマトリックスについて

当社取締役会が果たしていくべき監督機能を継続的に向上させることを目的に、取締役が保有する多様なスキルをマトリックス化し、以下のとおり開示いたします。

企業統治・経営戦略	スキルマトリックス							
	ESG	財務・会計	言語(英語/フランス)	人事・人材開発	グローバル	デジタル/IT/DX/MS	事業開発・投資	
藪中 三十二	○			○	○			
渡邊 和紀	○	○			○			
小出 寛子	○			○	○		○	
小坂 達朗	○	○		○	○	○	○	○
柳 弘之	○	○		○	○	○	○	○
江川 雅子	○	○	○					
松山 遙	○				○			
漆間 啓	○	○	○		○	○	○	○
皮籠石 斉	○	○	○					
増田 邦昭	○	○	○		○			
永澤 淳	○	○	○					
武田 聡	○	○			○			

### 社外取締役候補者 7 名について

まず、私が注目したいのは 2022 年 10 月期に起きた製品の不正問題である。この問題では三菱電機が関連する作業所・製作所の大半が不正を働いており、その不正も古くから続いてきたものであるという。個人的に社外取締役の方々に特に期待することはやはり、昔からの常習的な不正・悪習慣を第三者の目線から指摘し改善に向けさせることである。こういったことを踏まえると、昨年度の社外取締役は機能的に不十分である。そのため、昨年からの引き継ぎである再任者、特に在任年数が長い人物の再任には反対する。また、上記の表を見てみると、社外候補者で法務・コンプライアンスのスキルを持ち合わせているのは、新任の松山氏のみである。よって、現状不正問題を含めコンプライアンス面で不安が残る三菱電機は、長期在任者からコンプライアンスのスキルを持つ人物へと入れ替えることが望ましいと考える。よって藪中 三十二 氏 (在任年数 11 年)、渡邊 和紀 氏 (在任年数 8 年)、小出 寛子 氏 (在任年数 7 年) の 3 名の選任には反対する。

その他 4 名の選出に関して、4 名とも在任 1 年もしくは新任であり、各スキル面で 4 名のうち少なくとも一名はそのスキルを有しており、社外取締役の活動にしても幅広く対応できると見込まれる。よって 4 名の選任に賛成である。

### 漆間啓氏について

漆間啓氏は現三菱電機の執行役社長である。漆間氏が社長に就任した経緯について、製品の不適切検査問題で引責辞任という形をとった杉山前社長の後任として内部昇格した。ここからもわかるように、漆間氏には社内コンプライアンスの徹底が求められていた。それにも関わらず、社長在任中に再度不正問題が発覚した。この責任の所在は漆間氏にあると考える。また、個人的な考えとして、社内の体質を改善するには内部昇格した者では不十分で、やはり外部の人間を社長に据えることが必要である。よって、漆間啓氏の選任には反対である。

### 残る 4 名について

再任の 3 名は上記の表を見る限り幅広くスキルを有しており、特に内部の人間として企業経営に長けていることは今後の経営安定化をはかるうえでも重要であり、心強い。そういった点で、再任の 3 名の選任に賛成する。

また、新任の武田氏についても、企業経営をはじめとするいくつかのスキルを有しており、新任という取締役会に「新たな血を入れる」という意味でも選任に賛成する。

### 全体として

三菱電機の社外取締役率は 58.3%であり、コーポレートガバナンスコードが推奨する 3 分

の1以上という値を満たしている。このことから、今回の選任の組み合わせはバランスがよく、会社の透明性も高い。そして選任人数も12人であり、取締役会を行う上で差し支えない人数である。したがって、全体の選任に関しては賛成する。